磯部小学校の福祉活動を紹介します！

【活動アピールポイント】

本校では、４年生の総合的な学習を中心に「地域のバリアフリーを見つけていこう」をテーマに、障がいのあるなしに関わらず、様々な人たちが共生できる社会について考えてきました。まずは障がいのある人や、生活する上で困難さを抱える人たちについて知るために、体験活動や調べ学習を行いました。

学習を進めていく中で、自分たちとは違った困難さを抱えている人たちの存在に気付き、どんな人にも思いやりの心をもって接することの大切さを学びました。

令和５年度の取組み

１．福祉体験の実施

まずは、身の回りにどのような生活の困難さを抱えている人がいるのかを知るために、様々な実際に体験を行いました。

○点字体験

点字体験セットを使用して、点字を作成する活動を行いました。町の中や家の中にある点字を見つけることで、身近な場所にも視覚に障がいのある方を手助けするためのものがあることを知りました。実際に点字を使って文章を作成することで、視覚に障がいのある方の生活について深く考えるきっかけになりました。

○インスタントシニア体験

高齢者体験セットを使用して、高齢になるとどのような身体の変化があるのか、体験を行いました。活動の中で「怖い」「動きづらい」などの声が聞こえてきて、高齢者に優しくしたいという思いやりの気持ちをもつことができました。

○身体に障害のある方の講話

コムサポート・プロジェクトから講師の方を招き、車いすでの生活についてお話を聞きました。日常生活の様子を知ることで、今後、自分たちは障害のある人たちのために何ができるのか考えました。

2．障がいについて、学んだことの発表会

調べ学習や、体験活動を通して、福祉についてまとめたものをクラスごとに発表しました。児童たちは、「町の中のバリアフリー」や「身近なもののバリアフリー」などをテーマにし、点字や手話、高齢者生活などについて、本やタブレットで調べました。そして、分かったことや、学んだことをまとめて発表しました。発表後は、「自分のあまり知らない障がいのことも知れて良かった」「身近な生活の中に、たくさんのバリアフリーがあることを知れてよかった」「障がいのある人の生活は自分たちとそんなに変わらないことを知って驚いた」などの感想があり、さらに福祉について調べたいという意欲を見せる児童もいました。これらの体験活動を通して、福祉に関する関心が高まっただけでなく、困っている人を見かけたら手助けするなどの思いやりがこれまで以上に培われたのではないかと感じました。

明章小学校の福祉活動を紹介します！

【活動アピールポイント】

当事者疑似体験を通して、困り感を「自分ごと」として捉えることができた。また、当事者から話を聞くことで、福井県の現状を知ることもできた。予想以上の困難さや周囲の理解不足に驚き、体に障害をもつ人をいたわり、思いやりの心で接する大切さに気づいた。また、防災講習では、福祉体験学習の経験を生かして、高齢者や車いすが必要な人たちの目線で考えることもできた。

様々な困難を抱える人を含む、全ての人達が安心して暮らすために大切なことは、相手の立場にたって考え行動すること＝「思い愛（合い）」だと結論づけた。

令和５年度の取組み

９月	インスタントシニア体験 アイマスク体験 車いす体験
１０月	手話体験 アイマスク体験
１１月	盲導犬についての講話 学習発表会
１２月	点字体験
１月	パラリンピアンによる講話 障害者スポーツ体験「卓球バレー」 点字体験

【インスタントシニア体験、アイマスク体験】

高齢者疑似体験を実施しました。ゴーグルやサポーターなどを身につけた状態で、以下の①～⑤の動きを体験しました。

①鉛筆で文字を書く
②モニターに映った文字を読む
③階段を上り下りする
④教室内を移動する
⑤玄関で、外履きにはきかえる

これにより、体の動かしにくさや、見えづらさ、書きづらさを実感しました。

【車いす体験】

全体で車椅子の特性や介助方法について知ったあと、二人一組で、押したり乗ったりしました。舗装されていない道を想定し、段差のある場所を移動しました。また、玄関前のスロープの上り下りも体験しました。

普段危険性を感じていないような場所が危険だったり、いつもは移動できている場所でも、移動が難しいことに気づきました。スロープの移動は後ろ向きに進むため、進むときに声をかけることが重要だと実感していました。

【手話体験】

耳の聞こえない人のコミュニケーションの手段の一つとして、手話があることを知りました。AI が手話表現を認識する手話学習ゲームを活用して、楽しく学習しました。

【盲導犬のお話、点字学習】

盲導犬と一緒に生活されている方の話をお聞きしました。どんな仕事をされているのかや、盲導犬との生活や世話などについて教えていただきました。

目の不自由な方への周囲の理解不足や、福井県の現状を知って驚きました。盲導犬に出会った場合の対応についても学びました。

授業後、子ども達から「お礼の手紙を書きたい」という意見が出たことをきっかけに、点字学習も行いました。点字表の凹面を見ながら、点字器でお礼の手紙を作成しました。

【パラリンピアンによる講話、卓球バレー体験】

福井しあわせスポーツ協会より、講師の方々をお迎えして実施しました。

パラリンピアンからお話を聞き、前向きなエネルギーを受け取りました。次の夢へと向かう姿を見て、自分の夢へ向かおうという気持ちになりました。卓球バレーの体験では、ルールを工夫することで、誰もが楽しむことができるスポーツがあると実感しました。

丸岡中学校の福祉活動を紹介します！

【活動アピールポイント】

生徒たちが学校や地域でできることを考え、地域貢献活動やボランティア活動に取り組みました。文化福祉委員が中心となり、学級での呼びかけを行ってきました。他者を思いやり、自分たちにできることを考え進んで行動しようとする生徒の姿が見られました。

令和５年度の取組み

委員会ボランティア

毎年、文化福祉委員会が企画し校内ボランティアを行っています。今年度は、古紙やエコキャップの回収、木材を使ったエコストローの作成を行いました。

募金活動

世界で困難を抱えて生活している人々のために、ポスターを作り募金を呼びかけました。令和６年能登半島地震が起こった際には進んで義援金を集めるクラスがあり、それをきっかけに学校全体でも募金活動を行いました。

地域貢献活動（地域行事参加）

丸岡町の様々な行事に生徒たちが参加しました。「丸岡古城まつり」に参加した生徒たちは、地域の方と一緒に総踊りの練習をする機会があり、地域の方とのかかわりをもち、地域を活性化させる大切さに気付くきっかけとなりました。

丸岡南中学校の福祉活動を紹介します！

【活動アピールポイント】

本校では委員会（以下、共々委員会）を中心に、生徒発信の活動を行っています。「何のためにその活動をするのか」を生徒と確認し、募金活動や地域の祭りへの参加などを主体的に行いました。また、第１学年の総合的な学習の時間に、福祉体験活動やまとめ活動に取り組みました。この活動を通して、困っている人を見かけたときは自ら行動を起こしていくという意識が高まりました。

令和５年度の取組み

委員会での活動

共々委員会を中心に、「共々に」の精神で様々なボランティア活動を企画し、全校生徒で取り組みました。昼休みを利用した外掃除ボランティアには、学校をきれいにするためにたくさんの生徒が積極的に参加しました。また、赤い羽根共同募金では、共々委員会の生徒が毎日呼びかけ、募金への協力を促していました。

１年生での活動

第１学年を対象に、障がいのある方や高齢者への理解を深めるための講座を実施しました。手話講座、点字体験、卓球バレー体験、車いすバスケ体験などを行い、それぞれが体験して感じたことをスライドにまとめました。実際に困り感を抱える方のお話をお聞きしたり、障がいのある方や高齢者の方々とスポーツを楽しむことで、社会福祉に対する考えを深めることができました。

また、社会福祉についての講演会を実施しました。共生社会を目指して活動されている社会福祉法人つぐみ福祉会の方をお招きし、理念や取り組みについて教えていただきました。

春江小学校の福祉活動を紹介します！

【活動アピールポイント】

☆4 年生の総合的な学習の時間に、福祉活動を行いました。初めに学年集会で福祉とは何かを考えた後、本やインターネットで調べ活動を行いました。外部講師の方をお招きし、アイマスク体験・点字体験・手話体験も行いました。様々な体験活動を通して、子どもたちは障害のある方の生活が大変であることを実感し、助け合いながら「共に生きる」ことの大切さを学ぶことができました。

令和 5 年度の取組み

【　アイマスク体験　】

目が見えない状態で机の中から教科書を取り出したり、アイマスクをつけて教室や廊下を歩いたりする活動を通して、子どもたちは目が不自由な方の不便な思いを感じ取ることができました。また、目が見えない方をサポートするときに大切なことも学ぶことができました。

【　点字体験　】

点字はどのようなものかを教えていただいた後、点筆で実際に点字を打ちました。子どもたちは、点字の打ち方や読み方を知り、意欲的に活動に取り組むことができました。視覚障害の生活を助けるために身近なところに点字が付いていることにも、改めて気付くことができました。

【　手話体験　】

聴覚障害者の生活の様子について話を聞き、簡単な日常の手話を教えていただきました。通訳の方を介して耳の聞こえない方のお話を聞くことで、子どもたちは耳が不自由な方の生活の大変さを知ることができました。また、手話を使ってやり取りをする中で、手話があれば耳の聞こえない方とも楽しく会話ができることを学ぶことができました。

春江西小学校の福祉活動を紹介します！

【活動アピールポイント】

４年生の児童が、総合的な学習の時間に福祉について学びました。福祉は障害の有無や年齢などにかかわらず、誰にでも関係のあることとして学習を進めていきました。その中で、調べ学習をしたり、講師の方を招いて車いす体験や手話体験など様々な体験活動を行うことができました。講師の方のお話や体験活動を通して、自分にできることは何か考えることができました。

令和５年度の取組み

手話体験

聴覚障害者の方と手話通訳の方をお招きして手話体験を行いました。耳の不自由な方の生活の様子を聞いたり、普段使っている目覚まし時計なども見せていただいたりしました。生活を便利にする物があることが分かりました。最後には、自己紹介や挨拶などの簡単な手話を教えていただきました。

車いす体験

車いすを利用して生活している方を講師としてお招きして、生活の様子を教えていただきました。また、実際に車いすを使ってみたり、補助をしたりして、車いすを利用している方がどのようなことに困っているのか実感することができました。自分にできることも考えることができました。

アイマスク体験・点字体験

アイマスク体験では、普段目から得ている情報がどれだけ大きいか気づくことができました。点字体験では自分の名前を打ったり、点字で書かれた絵本を読んだりしました。

インスタント・シニア体験

インスタント・シニア体験では、高齢者の体の動き方や目の見え方を体験しました。関節が動かしにくかったり、視野が狭くなったりすることが分かりました。祖父母のためにできることはないか考えることができました。

大石小学校の福祉活動を紹介します！

【活動アピールポイント】

福祉教育は、毎年４年生を中心に総合的な学習の時間に取り組んでいます。調べ学習や様々な体験（インスタントシニア、パラスポーツ、点字）などを通して、視覚障がいや聴覚障がいについて学びました。

令和５年度の取組み

インスタントシニア体験

インスタントシニア体験では、イヤーマフやサポーターなどを付けて、加齢による身体的機能低下を疑似体験しました。体が重たく手足が思うように動かせないことに戸惑いを感じながらも、介助者の声を頼りに、一歩一歩慎重に階段を歩行しました。お年寄りの方の体の不自由さを体験し、「おばあちゃんの助けになりたい。」と感想を残す児童もいました。

パラスポーツ体験

パラスポーツの中から、卓球バレーとボッチャを体験しました。卓球バレーボール体験では、ルールを教えていただき、簡単なゲームを楽しみました。スポーツの得意な子も、そうでない子も夢中になって何ゲームも行いました。自分たちが普段行っているスポーツとパラスポーツの違いについて考えることで、みんなが一緒に楽しめることのよさを感じていました。

源さんの講話

源喜代志さんをお招きし、視覚障がいをもつ方の普段の生活について教えていただいたり、生活に必要な道具を見せていただいたりしました。盲導犬となるには、非常に厳しい訓練があることを知ったり、源さんの指示に忠実に従う盲導犬の様子を見たりした、児童はとても驚いていました。

春江東小学校の福祉活動を紹介します！

【活動アピールポイント】

本校では、小学校での福祉教育を、「すべての人を個人として尊重し、いろいろな人がいろいろな生き方ができるよう互いを認め合い、助け合い、共に生きていくこと」という考えのもとで進めてきました。

調べ学習や、外部の方による福祉体験活動等を通して、子どもたちは、自分にできることを考え、行動することの大切さに気付くことができました。さらに、これまで以上に思いやりの心をもって友達と関わるような姿が多く見られるようになりました。

令和５年度の取組み

車いす体験・アイマスク体験

２人１組でペアになり、介助する側と介助される側の両方を体験しました。車いすでは、段差の上り下り、ジグザグ走行、自走、ボール拾い、手洗いの体験を行いました。また、アイマスクを付けて、廊下を歩いたり、引き出しの中から教科書を探したりしました。体験を通して、介助される側の不安な気持ちや、介助する側の注意点を実感することができました。

手話講座

聴覚障がい者の方の生活の様子や、様々な工夫、使われている道具について教えていただきました。また、手話でのあいさつや自分の名前の表し方を学びました。

源さんの講話

「普段、どうやって買い物をされているのか」、「盲導犬になるにはどのようなトレーニングをするのか」など、たくさんの質問に答えていただきながら、お話をうかがいました。

福祉に関する発表会

福祉体験や調べ学習などから学んだことを一人一人がスライドにまとめ、３年生に発表しました。様々な体験を通して、自分の言葉で堂々と発表することができました。

春江中学校の福祉活動を紹介します！

【活動アピールポイント】

SDGｓ「すべての人に健康と福祉を」をテーマに地域の人と交流する活動を行いました。障がい者スポーツ交流会、ボランティア体験、地域での交流会をとおして、生徒たちだけでなく、参加したお年寄りたちも「交流することの喜び、大切さ」を身をもって感じていました。終始笑顔で活動ができたことに、やって良かった！と感じました。それも社協の皆様の協力のおかげです。本当にありがとうございました(*^_^*)！

令和５年度の取組

１０月３１日（火）・１１月７日（火）障がい者スポーツ交流会・ボランティア体験

障がい者スポーツ交流（ペタンク・卓球バレー・フライングディスク）では、２日間で６０名ほどの地域のシルバー・シニアの方々と一緒に活動することができました。自分のチームに誘ったり、次の場所へ誘導したりする姿や、点数を決めると一緒に喜び合う姿が見られました。お年寄りと一緒に活動することで、より障がい者スポーツの良さを理解し、実感することができました。また、お年寄りに気遣いながら活動することで福祉の立場にたって活動ができたと思います。

ボランティア体験では、お年寄り相手にどのようなことに注意して、どのような活動をすればよいのかを実際にボランティア団体（わくわくいきいく倶楽部・友サークル・スーイスイ元気塾・絵本くらぶ）に来ていただいて体験を通して学ぶことができました。自分たちに何ができるかまで一緒に話し合うことができたのが、次の活動にも生かされよかったです。

１２月１日（金）・５日（火）地域に出向いた交流会

地域に出向いた活動では、春江町内１１カ所（サロンを開いている場所）へ生徒が足を運び、地域のお年寄りたちを招待しました。お年寄りの立場に立って喜んでくれるように遊びを考えたので、お年寄りたちも楽しく活動でき、参加したみんなが終始笑顔で活動を終えることができました。「またやりたい！」といった感想が聞けたのも、

達成感や充実感を感じたからこそです。この体験を地域に戻ったときに積極的に地域に関わろうとする態度につなげてほしいと思います。関わってくださったすべての方々に感謝です。

東十郷小学校の福祉活動を紹介します！

【活動アピールポイント】

４年生の総合的な学習の時間を中心に、福祉活動に取り組みました。外部講師をお招きして、ボッチャやフライングディスクの体験をしたり、調べ学習に取り組んだりして、障がいをもつ人の生活について学習しました。また、学習した手話を使って、お世話になった６年生に、感謝の気持ちを込めて手話コーラスをプレゼントしました。これらの活動を通して、障がい者スポーツや点字、手話を身近に感じ、誰に対しても思いやりの心をもって、助け合って生きていきたいという心を育てることができました。

令和５年度の取組み

障がい者スポーツ体験

（ボッチャ・フライングディスク）

外部講師をお招きして、ボッチャとフライングディスクを体験しました。フライングディスクを通して、目が見えない場面では、「音」が重要なサインとなることに気づきました。また、ボッチャの体験を通して、障がいのあるなしに関わらず、全ての人が競い合えるスポーツの大切さを知ることができました。自分たちの周りに暮らす様々な人と関わり、共生することの大切さを学びました。

障がい者スポーツ・点字・手話体験教室

パラリンピックの紹介の動画を視聴したり、目や耳が不自由な人たちの生活の動画を視聴したりして、障がい者スポーツや点字、手話に興味をもちました。その中から詳しく調べたいことを選び、本やインターネットを使用して、調べ学習を行いました。調べた内容をプレゼンソフトでスライドにまとめ、発表しました。発表を通して、手話の体験をしたり、点字に触れたりすることができました。

大関小学校の福祉活動を紹介します！

【活動アピールポイント】

４年生を中心に、総合的な学習の時間に福祉活動を行いました。はじめに、様々な福祉について調べ学習を行い、児童の興味、関心が多かったことについて体験活動を行いました。

今年度は、車いす体験、盲導犬体験、手話体験、障がい者スポーツ体験（ディスクゴルフ）を実施しました。体験を通して、障がいのある人の困難さを実感したり、日常生活での工夫や、してほしい補助の方法等、具体的な話をたくさん聞くことができました。

これらの活動を通して、困っている人に対して、自分から声をかけたり、手伝ったり、協力したりしたいという思いやりの心が育ち、障がいの有無に関わらず、生き生きと生活するすばらしさに気が付くことができました。

令和５年度の取組み

【手話体験】
聴覚障がいの方に来ていただき、生活のお話を聞いたり、簡単な挨拶や児童の名前を教えていただいたりしました。災害があったときにしてほしい手助けや、毎日の生活で楽しんでいることなどを教えていただき、児童は想像しながらじっくり話を聞くことができました。

【車いす体験】
４人組になって、「車いすに乗る」、「介助をする」という２つの体験を、順番に行いました。普段使っている手洗い場やトイレへの出入りを体験しました。やさしく声をかけたり、乗っている人の気持ちになってゆっくりと操作したりすることの大切さも学習しました。

【源さんの講話、盲導犬体験】
目の不自由な方に盲導犬と一緒に来ていただき、普段の生活の様子や使用している道具などについて話を聞きました。また、盲導犬との生活の様子について、児童からの質問を中心に詳しく教えていただきました。

【障がい者スポーツ　フライングディスク体験】
坂井市身体障がい者春江支部の方々にご協力いただき、フライングディスク体験をしました。講師の方々のお手本を披露していただき、ルールを教わりながら体験しました。簡単そうに見えてやってみると難しいことや、年齢や体格の大きさ、障がいの有無関係なく楽しめることに気が付くことができました。

【校区の施設　スマイルネットワークさかい訪問】
大関駅の近くのスマイルネットワークさかいを訪問し、施設の概要を聞いたり、実際に利用者の方がリハビリしている所を見たりしました。施設の方からのお話を聞き、利用者の方もこれまで出会ってきた障がいをもった方と同じで、伝わり方は違うけれど、楽しんで生きていること、関わりたいと思っていることに気が付くことができました。

兵庫小学校の福祉活動を紹介します！

【活動アピールポイント】

４年生の総合的な学習の時間に「やさしさ見つけ隊、やさしさつたえ隊」のテーマのもと「福祉」を学習しています。児童が福祉を身近に感じ、福祉について考えられるように、アイマスク体験、点字体験、障がい者スポーツ体験、交通バリアフリー体験、インスタントシニア体験、車いす体験、手話体験と多岐にわたり、体験活動に力を入れて取り組みました。子どもたちは、自分にできることを考え、行動することの大切さに気付くことができ、これまで以上に思いやりの心をもって友達と関わる姿が見られるようになりました。

令和５年度の取り組み

①アイマスク体験

教室で、どんな言葉がけや手助けをしたらよいかを皆で考えた後、廊下や階段を歩きました。児童は「実際に相手の手を持って手すりに置いてあげたり、階段があと何段あるのか具体的な数を言ったり、今どこを歩いているのか場所を教えてあげたりすることで、不安がなくなることが分かった。助けてもらってうれしかったので、次は自分も助けることをしたい。」と感想をもっていました。

②障がい者スポーツ体験教室

しあわせ福井スポーツ協会、障害者フライングディスク協会、障害者卓球協会の方々に協力していただき、フライングディスクと卓球バレーの体験を行いました。どちらも音を頼りにするスポーツで、目が見えない不便さや大変さを感じつつもゲームを楽しみ、大いに盛り上がっていました。

③交通バリアフリー教室(車いす体験・インスタントシニア体験・バスの乗降体験)

中部運輸局交通政策部バリアフリー推進課、京福バスの方々に協力していただき、車いす体験、インスタントシニア体験、バスの乗降体験を行いました。車いす体験では少しの段差でも大変だということを体感し、車いすに乗ったまま路線バスに乗る乗降体験では周りの人の手助けの大切さを実感していました。インスタントシニア体験では、装具をつけての階段の昇降や文字の読み書きの大変さがわかり、「お年寄りにもっと親切にしたい。」という思いが強くなりました。

④手話体験教室

県聴覚障がい者協会に協力していただき、手話講師、手話通訳士の方に来ていただきました。耳が不自由な方の生活の大変さを知ったり、手話で自己紹介をしたりしました。手話や手話通訳士という仕事にも関心を高めていました。

⑤絵はがきを福祉施設に送ろう

絵はがきを描いて、介護老人福祉施設「潟池野」に送りました。お年寄りの方に気持ちのこもった絵はがきを描けるように、赤、青、紫などきれいな色のあさがおの花を仕上げていました。

⑥点字体験

点字を使って、自分の名前や学校名を打ってみました。「ひょうごしょうがっこう」と打つことだけでも「どうやるの？」と疑問の声があがったので、みんなで調べながら取り組みました。

⑦「ひょうご元気秋まつり(創立１５０周年記念式典)」での学習発表会『われら、やさしさ見つけ隊、やさしさつたえ隊』

福祉について調べたことや体験活動からわかったこと、考えたことを地域の方々に向けて発表しました。どのグループも、だれもが暮らしやすくなるために何ができるかを考えて発表していました。また、校歌に合わせて手話を披露しました。

⑧認知症サポーター養成講座

坂井きらめきの方に来ていただき、認知症とはどのようなものなのか、また、認知症の方にはどのように接したらよいかということを中心に学習しました。認知症について正しく理解し、自分たちにどんな支援ができるのかについて一人一人が考える大切な時間となりました。

木部小学校の福祉活動を紹介します！

【活動アピールポイント】

「障がいについて理解を深め、思いやりの心を育む」ことを目標に、福祉学習に取り組みました。①共生社会の出前授業、②車いす体験、③インスタントシニア体験、④盲導犬のお話、⑤障がい者スポーツ体験、⑥手話教室を行いました。最後に、グループに分かれ、体験したことや、本やタブレットで調べたことをまとめ、学校公開日に発表しました。体験学習と調べ学習の両方を行ったことで、障がいについて理解を深めるだけでなく、思いやりの心を育むことができました。

令和５年度の取組み

①共生社会の出前授業

身体障がい者の方に、障がい者になった出来事や、障がいをおった直後の気持ち、そこから前向きに捉えることができるようになったことについてお話を聞きました。また、障がい者の立場から残念なバリアフリーについて聞き、ただ作るだけでなく、障がい者の立場に立って考えることの大切さを学びました。

②車いす体験

ペアになって、車いすに乗る人と介助するの体験をしました。車いすに乗っているのは、思ったよりも怖いと感じる児童が多く、車いすに乗る人を気遣う大切さを学びました。また、介助する人は、声をかけながら車いすを押すことで、車いすに乗る人が安心して乗ることができることに気づきました。

③インスタントシニア体験

ペアになって、インスタントシニアの装具を付けて、階段の昇降や文字の読み書きの体験をしました。お年寄りは、体を動かしたり、読み書きをしたり、会話をしたりするときに、大変さを感じていることに気づきました。体験を通して、お年寄りに今まで以上に親切に接したいという思いをもつことができました。

坂井中学校の福祉活動を紹介します！

【活動アピールポイント】

今年度は毎年行っている１年生の福祉体験だけではなく、家庭科の学習内容を深めるために社会福祉協議会の方を招いた出前授業を行っていただきました。また、総合での探究学習において、地元への理解を深め自分たちの計画をより具体化するために社会福祉協議会をはじめとする地域の方との対話の場面を多く取り入れました。今後も福祉教育を定例の行事にするだけではなく、今年度のように様々な学習と絡めて福祉について学ぶ機会を増やしていく予定です。

令和５年度の取組み

車いす体験(１年)

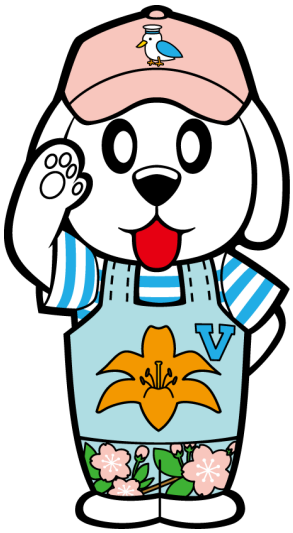
校舎内を車いすで移動し、車いすでの生活を体験しました。バリアフリーになっている手洗い場とそうでない手洗い場での便利さの違いや、乗車中の目線の高さの違いなど、普段の生活と大きな差があることに生徒一人一人が気づくことができました。

認知症学習(１年)

認知症について、福井県キャラバンメイト協議会の方が演じる認知症役の方に、実際にどのように声をかけたり、接したりしていけばよいのかを講義と体験を通して学ぶことができました。活動後、生徒からは「認知症になっても感情は生きていることを意識して、心を傷つけないような接し方ができるようにしたい」という感想を聞くことができ、認知症を「自分事」として身近にとらえるきっかけになりました。

まちづくりプロジェクト(３年)

坂井町の抱える課題から、自分たちなら町をどのように良くしていくかをグループに分かれて企画していきました。企画案を考える中で、社会福祉協議会の方から様々なアドバイスをいただき、より具体的な案を考えることができました。



令和５年度坂井市小中学校福祉共育活動報告書

発行日：令和６年３月

発　行：坂井市社会福祉協議会

〒919-0521

電話番号：0776-68-5070　　FAX:0776-67-2807

ホームページアドレス

http://www.sakaicityshakyo.jp/